

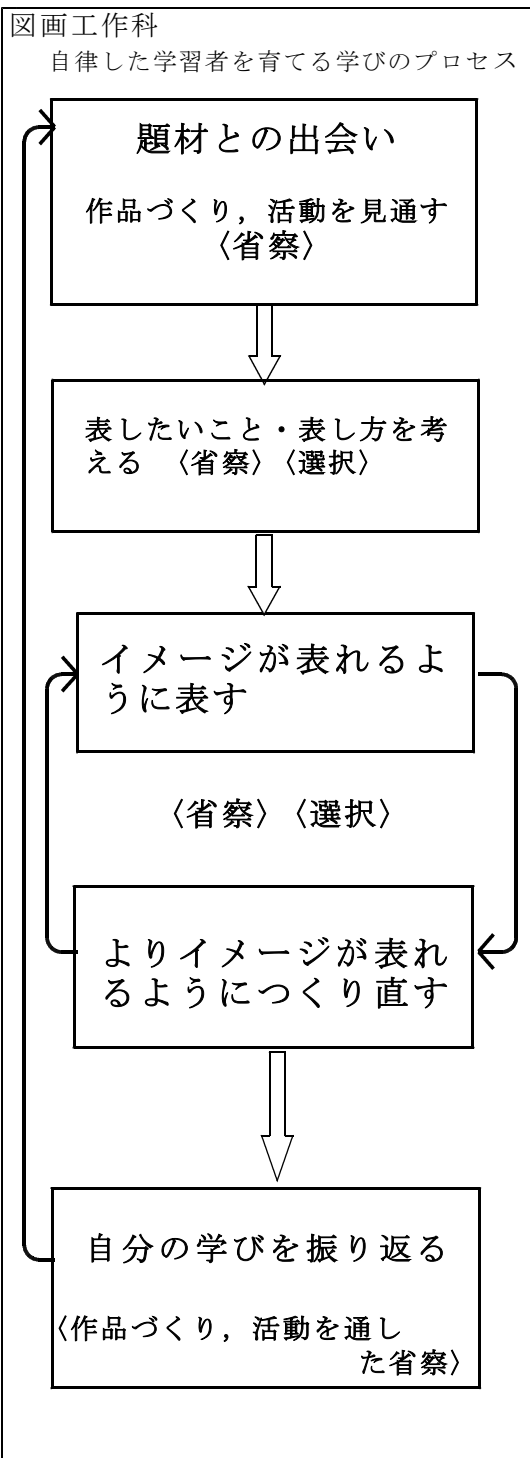
令和2年度 図画工作科実践・研究計画

部 員 ○進藤亨, 佐々木恵

研究テーマ

**表したいことをはっきりともち、
表したいイメージに近づくように表現を工夫する子どもを育む学び**

1 研究テーマについて



図画工作科の特質は、自分が表したいイメージを形や色などで表すことである。

こうした特質をふまえ、本校の図工部では図画工作科での「自律した学習者」の姿を自分が表したいことをはっきりともち、表したいことに適した表現を求めて試行錯誤していく姿であると考えます。

自分の学びを自覚することで、自分で決めた表したいことをどのように表せばよいのかを主体的に考えながら、表したいことに近づくような表現方法を選択したりつくり出したりすることができるものと考えます。

また、図画工作科における「学びをつなぐ」とは、前に学習した考え方をを用いて表したいことを思い付いたり、習得した表し方を自分の表したいことに合わせて意図的に取り入れたりすることであると考えます。

昨年度は、表したいことが効果的に表現できているかどうかをイメージや形、色などに着目した「見方・考え方」を働かせた省察をしながら作品づくりに取り組む子どもの姿を目指して実践を行った。その結果、自分の表したいことが伝わるかどうかを視点として、どのような表し方がより効果的なのかを主体的に省察しながら作品づくりに取り組む子どもが多く見られるようになった。しかし、この場面での気づきを他の題材や生活場面につなげている子どもは多くはない。

例えば、作品づくりの際に、色の濃さが異なる緑色が木の葉に塗られ、その色の濃淡から奥行きを感じることもできた場合でも、このままでは、同じような木の葉を描く場面にはしか使えない。「色の濃淡をつくることで奥行きを表すことができる」という一段階上の高まった振り返りをする姿を目指すことによって、木の葉だけでなくより広い場面で活用することができるものと考えます。

そこで、本年度は、試行錯誤を通して効果的な表現を次の活動につなげるための題材を通じた学びの概念化を図るための省察を重視する。

図画工作科で育てたい「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のようにとらえる。

- ・これまでの生活経験や学んだことを想起し、自分の表したいことをもったり、表し方を考えたりする姿
- ・表したいイメージに近づくように、これまで学んだ表し方を生かしたり、表す・省察を繰り返したりしながら、納得できる表し方を見付ける姿。
- ・作品づくりを通して見方や感じ方を広げ深め、自分の学びを自覚したり、今後に生かそうとしたりする姿。

2 研究の重点

(1) 試行錯誤を通して効果的な表現を選択するための手立ての工夫

表したいことを効果的に表現するためには、様々な表現方法から自分の表したいことに適したものを選択したり生み出したりすることが大切である。低学年でクレヨンと水彩絵の具を組み合わせた表現方法で絵を描く活動を行うが、クレヨンで描いた線を目立たせる表現は、中学年でも高学年でも活用できるものである。また、2年生の「キラキラシャボンで」では、シャボンの泡を用いて絵を描く活動を行うが、シャボンの泡を用いた表現はこの題材でしか用いないことがほとんどである。しかし、シャボンの泡を用いた表現も、中学年でも高学年でも活用できるものである。

そこで、これまでに学んだどんな表し方を用いればよいのかを全体での省察、グループでの省察、個での省察を通して考える場をもつことによって、自分の表したいことを効果的に表現する姿につなげていきたい。そのために、多様な表し方に対する必要感が生まれるための条件、また、既習の表現方法を再度試したり、材料や用具の特性をつかんだりする活動ができるような場の設定の在り方を探っていきたい。

(2) イメージや形、色などに着目した「見方・考え方」を働かせて次の活動につながる自分の学びを省察するための手立ての工夫

図画工作科の学びにおいて、省察は次の三つの場面でなされると考える。一つ目は、表したいことをどのようにして表すかを構想する場面、二つ目は、作品づくりの際に、表したいことが効果的に表現できているかどうかを確かめる場面、三つ目は、作品づくりを通して自分の学びや今後に生かせることをふり返る場面である。

昨年度は、作品づくりの際に、表したいことが効果的に表現できているかどうかを省察しながらつくる活動を重点とした。鑑賞活動を通して作品づくりで働かせる「見方・考え方」をつかみ、その「見方・考え方」を働かせてつくったり見合ったりしながら作品づくりに取り組む子どもの姿が多く見られるようになった。しかし、この気づきを他の題材や生活場面に生かすことができている子どもはあまり多くない。そこで、本年度は、作品づくりを通して今後の自分の学びに生かすための省察場面を重点としたい。

そのために、個の気づきを全体で共有し、一般化するための場の設定、題材を通して学びを自覚するために用いる学習カードの工夫などを探っていきたい。

3 研究・研修計画

時期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 ・附属中学校公開研究協議会(6/5) ・附属小学校公開研究協議会(6/12) 提案授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案 ・授業を通して重点事項の検証 ・授業づくり，授業力向上
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要原稿執筆 ・教科部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・授業づくり，授業力向上
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会 ・部内研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり，授業力向上 ・研究の方向性の確認 ・実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正